

解答

□

問一 ㊦ 過度 ㊩ 調（える） ㊧ 当面 ㊥ 底

問二 (1) 「ハングリー精神」は、飢えが必死さを生むので成功をもたらすが、「ぬるま湯」は甘えを生むので、チャレンジ精神が生まれず、成功にもつながらない。

(2) 「ハングリー精神」は、必要なことがあっても与えるとは限らないが、「ハラが減っては戦はできぬ」は、がんばるために必要な条件や前提を調えるという違い。

問三 客観的な判断基準の有無によって必要と甘えを区別することはできるのではないかという考え。

問四 ウ

問五 (1) 必要か甘えかは、人それぞれが判断するしかないという意味での「自由」だということ。

(2) 筆者の中には、「誰もが人間らしく生きられるようにするのが『必要』だ」というラインが明確にあるので、断定を避ける表現をしている。

□

問一 ア

問二 もとの形をとどめながらも、徐々に小さくいじけたみにくいものになっていったということ。

問三 自由でのびのびしていて、活気があって楽しい気持ちが消えていくということ。

問四 だれがつかってもおなじくきれいに印字されるパソコンでも、甲賀さんの手にかかれば甲賀さんの描き文字が持つ味わいや生き生きとした感覚を失わないということ。

□

問一 ある人にとっては腹が立ち、許せない悪事についての話だが、ある人にとっては悲しくてたまらない話。

問二 人が人をおとしめる世の中はまちがっているという意味。